

みんなの家は今

熊本地震後、町内の仮設団地に整備された30棟の「みんなの家」。
住宅の再建に伴い仮設団地は徐々に集約・閉鎖され、
役目を終えたみんなの家は現在、町内各地に移設し活用されています。



みんなの家は、コミュニティ
構築のための大事な施設です。
東日本大震災の教訓として、熊
本地震の際にはいち早く一斉に
整備されたと聞いています。
私が自治会長を務めたテクノ
仮設団地には6つの工区があり、
それぞれにみんなの家がありま
した。「みんなが集える場所があ
る」。このことが一番良かったと
思います。みんなの家で日々行
われるたわいない雑談や手芸・
お花教室などを通じて、今まで
面識がなかった人たち同士で痛
みの共有ができ、さらに孤立化
予防につながり、仮設団地住民
の絆が深まったと思います。
仮設団地での役目を終えたみ
んなの家が、町内各地で再活用
されていると聞き、とてもうれ
しかったです。私は、被災した
ものだけが震災遺構ではないと
考えています。町内各地に移設
されたみんなの家の利用を通じ
て、熊本地震の記憶が語り継が
れていくことを願っています。



元テクノ仮設団地自治会長
よしむらしずよ
吉村静代さん